

# 東西条地域センターだより

## 第44号

令和2年6月25日発行

東西条地域センター TEL&FAX 082-421-2023

### 花の如き 口をあけたり 燕の子 月斗 (青木月斗、正岡子規の門下俳人)

軒に巢をかけた燕はまもなく卵をかえ孵すが、新緑の頃、可愛らしいひな雛が巢からくちばし嘴をもたげてチイチイと啼いている。これは一番子と言われるもので、二番子は盛夏に孵る。つまり燕は二度の雛を育てるのである。二番子の産まれる頃、一番子はもはや巣立って飛んでいく。(大泉書店「新編 歳時記」より)

梅雨入りして早や 10 日余が過ぎようとしています。吹く風も夏めく季節となりました。ようやく収束に向かいつつあるコロナ禍ではありますが、第 2 波感染が消えたわけでもなく、気が緩む時期はありません。「新しい生活様式」を守っていきましょう、油断は禁物です。(センター長 折羽邦彦)



### 《市民一人、1学習・1スポーツ・1ボランティア》

《住民の皆様にも、生涯学習の場を提供し、住民同士のふれあいの場を広げる所が地域センターです》

#### カタカナ語、皆様はいかが思われますか？

新型コロナウイルス感染拡大の報道で、見聞きすることが多くなりましたね。そもそも、ウイルスとはラテン語の「毒」という意味だそうです。オーバーシュートは「爆発的な患者発生」、ロックダウンは「都市封鎖」、クラスターは「感染者の集団」という意味で、政府や専門家らが国民に外出の自粛を求める際に口にしてきた外来のカタカナ語です。コロナに関する感情・実状を表現する時に使われます。世の中の変化に対応するにはうまく採り入れることは良いことなのか？ 難しくても仕方なく付き合うか？ 微妙なニュアンスが加わって表現しやすければ定着するし、ピッタリな訳語があれば次第に使われなくなることでしょう！

そんな近頃のカタカナ語の評価、皆さんはいかがですか？ 新聞の記事によると、評価する・容認する人の理由は、①翻訳すると雰囲気伝わらない②新しい外国語の事柄をすぐに表せる③気にならない④外国語を知る機会になる⑤わかりやすい、と答えています。反対に、評価しない人の理由は、①意味がよく分からずモヤモヤする②漢字やひらがなで翻訳すべき③気取った感じでイライラする④軽薄に感じる⑤日本語の伝統が損なわれるなどと感じておられます。コロナ報道に関してはご高齢の方には特に分かって欲しいから、もう少し分かりやすい日本語で発信して欲しいと高齢の私は注文を付けたい。

その他コロナ報道関連で注釈を付けなくて分かりますか？「ソーシャルディスタンス」「リスペクト」「ライブ配信」「レガシー」「パンデミック」「フリーランス」などなど。「IR・アイアール」は統合型リゾートの方が分かりやすく思いますが。(センター長・折羽)



# 「豪雨災害対策&コロナ禍」、共助の意識を大切に！

地域センターは、地域の防災の拠点などの役割が強く期待されています。

《 地域コミュニティと連携した防災によるまちづくり 》 が必要です。

大きな課題となっている「地域防災」について住民みんなが考え・知恵を集め、地域センター等を拠点としたまちづくり力で、災害に備え減災を目指しましょう。今年は特にコロナ禍もあります。

## 【避難と新型コロナ感染予防の主なポイント】

- 1) ハザードマップなどで自宅周辺の危険箇所や避難場所を確認
- 2) 警戒レベル3, 4が出たら、対象者は危険な場所から避難
- 3) 親戚や知人宅など複数の避難先を確保し、分散避難を検討
- 4) 避難先にマスクやアルコール消毒液、体温計などを持参。こまめな手洗い、せきエチケットを徹底 (新聞記事より)

※東西条地区の公設避難所は「東西条地域センター」(東広島市西条土与丸二丁目3-4)です。避難所に配備されているものは ①マスク、②消毒液、③ゴム手袋、④ペーパータオル、⑤体温計、⑥間仕切り (写真を参考)、⑦非常用食料、⑧非常用飲料水 です。

※自家用車用避難場所は東広島運動公園駐車場です。

(体育館東側、2箇所約190台可能と屋外トイレ1箇所あります)

※親戚や友人の家などに逃げる、ホテルなどの宿泊施設で過ごす「分散避難」が有効。



## 《 地域センター長のほやき 》

(簡易間仕切り・サンプル)

今や「防災でコミュニティをつくる」ことが地域センターの最優先の役割と思われる。「地域コミュニティすなわち住民自治協議会と連携した防災のまちづくり」を支援していくのが地域センターの役割と考えます。①防災に関する学習内容は「社会教育の必要課題」に属する学習であり、講座機会の提供 ②防災活動はまちづくり活動の1つであり、地域課題の解決は住民自治協議会の役割である ③まちづくりは地域センターと地域住民・団体と共に「活気あるまちづくり」を目的に連携していきたい。また自主的に、自発性をもって、自立した東西条地区住民でありたい。多くの人を巻き込んで波及して行って欲しい。

## 《確認・各家庭での検討事項》

土砂災害など災害発生時には、いち早く安全な場所に避難することが何よりも大切ですが、避難に要する時間はご家庭ごとに違います。小さなお子さんやご高齢の方がいらっしゃるご家庭では、「急ぐこと」が難しいので避難そのものに時間がかかります。「まだ大丈夫。」ではなく、十分な余裕を持って行動して下さい。

「危ないから避難しよう。」あなたのこのひと言が救える命があります。

- 1) 避難所、一時避難所、避難場所を今一度確認しましょう。  
災害時に自宅から避難する際、逃げやすいと感じるのはアンケートでは自宅から避難施設までの距離は、300~550mであると言われている。どこを選ぶか考えておきましょう。
- 2) 各区の自主防災組織の連絡網で避難連携を取りましょう。
- 3) 避難行動要支援者の支援者になっていたら、他の支援者と連携し、声かけや電話連絡をいたしましょう。  
「助け出す」より「連れ出す」ことをまず、考える。
- 4) コロナウイルス感染症対策をして避難行動を起こしましょう。
- 5) 東広島市から皆さんへ、災害時に緊急情報が入る、緊急告知ラジオをお持ちですか？
- 6) 当事者は「山地災害の危険信号」を見逃すな！①川がにごった、②水位が下がった、③亀裂が走った、④石が落ちてきた、⑤わき水が止まった、⑥わき水が増えた、⑦井戸水がにごった、⑧地鳴りがする。
- 7) テレビなどの気象情報に注意しましょう！ (記：地域センター長：折羽邦彦)